

総務経済委員会所管事務調査報告書

調査日時：令和2年6月10日

調査場所：標茶町役場議員室

1. 調査事項

地域おこし協力隊とまちづくりについて

2. 出席者

委員：長尾委員長、渡邊副委員長、松下委員、熊谷委員、深見委員

説明員：武山企画財政課長、油谷企画財政課長補佐、石川企画調整係長、三船観光商工課長

事務局：佐藤事務局長、中島議事係長

3. 調査の経過及び内容

標茶町では平成29年7月に1名、平成30年9月に2名、計3名の地域おこし協力隊隊員が活動している。

平成29年に「道東ホースタウン」体験ツアー2017を実施、平成30年には㈱スカイファームを中心に立ち上げた「道東ホースタウン」プロジェクトを町連携事業と位置づけ、標茶町を中心とした道東エリアで乗馬・馬文化の振興に連係した取り組みを開始する。

主に総務省の予算を利用し、地域おこし協力隊の事業は進められている。

体験ツアー・町内イベントでの乗馬体験などを通じ、町内外の人々に【馬】のいる生活を体験してもらうことにより、関係人口増加や新たなビジネスモデルを模索している。体験ツアーのアンケートでは馬事・地域振興に大きな賛同が得られている。標茶町の知名度・イメージも体験ツアーを通じて良好な反応が見てとれる。またふるさと納税に対しては86パーセントの回答者がふるさと納税の意向を示している。

その他【馬】を通じた標茶との関わりにSNSを利用したホースタウン広報官（ボランティア）が15名任命され全国に点在している

4. 委員会の所見

地域おこし協力隊の任期は最長3年であるが、任期内で生活の基盤を確立し、以後も標茶町での活躍を期待している。そのためには地域とのコミュニケーション、町内外への継続的な情報発信、行政・民間との連携を深めていく必要があると考える。

他の様々な分野においても優秀な隊員を招き入れ、標茶町の地域振興に力を発揮する事を期待する。

ホースタウンプロジェクトにおいては関係人口の増加・新たなビジネスモデルの展開に大きな将来性を感じている。また今後の知名度の向上により、馬との生活を念頭に置いた移住者の増加も期待するところである。馬との生活にはルールの改定や物理的な環境整備も必要となってくるが、今後の状況を見て議論の場を要すると考える。